

新棟移転に伴う血液ガス分析装置の一元管理化

◎岡田 有以¹⁾、尾崎 文彦¹⁾、吉森 之恵¹⁾、加藤 太一¹⁾、大嶋 慎也¹⁾、藪本 奈那¹⁾、余語 保則¹⁾
トヨタ記念病院¹⁾

【はじめに】当院は病院再構築計画「REBORN」を策定し、2023年5月より新棟へ移転した。移転前は、院内4箇所（ER、ICU、NICU、OPE）設置のRADIOMETER社装置を臨床工学科が、2箇所（外来検査室、臨床検査科）設置のSIEMENS社装置を臨床検査科が管理していた。機器メーカーや精度管理を行う部署が異なるため、測定場所による精度のバラつきが懸念され、臨床検査科による一元管理化への要望が高まっていたが、夜間休日の対応方法等について課題があり実現に至っていなかった。今回REBORNを機に一元管理が可能となったため、その効果について報告する。

【方法】・既存2機種間における精度状況を確認した。（中部医学検査学会報告済）・臨床工学科、RADIOMETER社から消耗品・機器管理研修及びPOC装置管理システム

「AQUIRE」操作研修を受け、検査科内において事前に

「AQUIRE」移設含めた一元化可否の検証を行った。

・「REBORN」策定時に、医師・看護師含め関連部署と検査科が一元管理を行う上での懸案事項を整理し運用案を討議した。・新棟でのエアシューター整備・活用により検査科

設置台数削減を検討した。【効果】新棟で全ての血液ガス分析装置をRADIOMETER社に統一したことで、機器間差解消など精度管理状態の整備が可能となった。臨床検査科の血液ガス分析装置を1台削減し、より緊急性の高いGICUに新設できた。また、消耗品全てを集約し管理を行うことで、院内全体の無駄が削減され、ランニングコストを下げられた。同時に採血管の変更を行い、その特性から、検体不良のリスクや採り直しによる患者負担が低減された。

「AQUIRE」と検査システム連携を検査技師主導で改善でき、新たな患者誤認防止策もすでに取り入れている。夜間休日運用とトラブル時対応をまとめ院内展開し理解を得られたことで、管理部署移行に異論は発生しなかった。【まとめ】血液ガス分析装置を統一し、精度管理を含めた機器管理を臨床検査科で一元化することの院内貢献が実感できた。今後の展望として、RADIOMETER社のライブコネクト遠隔サポートも導入予定であるため、さらに病院全体の血液ガス運用効率向上が期待できる。

連絡先 0565-28-0100